

総会記念講演会

外交ジャーナリスト・作家

手嶋龍一氏講演会

激動の世紀をどう生き抜くか

～トランプ政権と日米同盟～



*講師プロフィールにつきましては裏面に掲載しております。

日時

平成29年 **5月30日** (火)

開演 / 午後2時~3時30分

(開場 午後1時30分)

会場

「村山市民会館」小ホール

(村山市楯岡笛田二丁目6-1)

(TEL 0237-53-3111)

聴講無料

どなたでもご自由にお聴きいただける
公開講演会です。申込みは不要です。
直接会場にご来場ください。

公益社団法人 **村山法人会** 青年部会、女性部会

主催

お問い合わせ / 公益社団法人 村山法人会 事務局
〒995-0035 村山市中央1-3-5 村山市商工会館2F
TEL 0237-55-2555 (平日 8:30~17:00)

講師：外交ジャーナリスト・作家

手 嶋 龍 一 氏

< プロフィール >

9・11同時多発テロ事件に際しては、NHKワシントン支局長として11日間にわたる24時間連続放送を担い、その冷静で的確な分析は視聴者の圧倒的な信頼を得た。

『宰相のインテリジェンス～9.11から3.11へ～』（新潮文庫）は2001年の同時多発テロ事件から、2011年のフクシマ原発事故までの10年間をインテリジェンスの視点から検証し、日米両国のリーダーシップの有りようを描いたノンフィクション作品。（単行本の原題は『ブラックスワン降臨』新潮社刊）。2015年9月には佐藤優氏との共著『インテリジェンスの最強テキスト』（東京堂出版）を上梓、日本の現状を踏まえたインテリジェンス論の決定版と評されている。佐藤氏とは、インテリジェンス対論三部作（『賢者の戦略—生き残るためのインテリジェンス—』『動乱のインテリジェンス』『知の武装—救国のインテリジェンス—』）を出版している。2016年11月には、書下ろしノンフィクション『汝の名はスパイ、裏切り者、あるいは詐欺師～インテリジェンス畸人伝』を発表。現代史を彩るスパイたちの人間味溢れる物語を通じて、情報の世界における人間力の重要性を説いた。

1990年代初めには、NHKワシントン特派員として冷戦の終焉に立ち会い、『たそがれ行く日米同盟～ニッポンFSXを撃て～』を執筆。綿密な取材と冷徹な分析がノンフィクション界に論争を巻き起こした。続いて、湾岸戦争時の日本外交の迷走ぶりを衝いた『外交敗戦～130億ドルは砂漠に消えた～』（いずれも新潮文庫）を発表。これらの著作を通じて、早くから日米同盟の空洞化を予見し、警告を発してきた。日本外交や安全保障を題材にしたこれらのノンフィクション作品は、若い世代にも読み継がれ、ロングセラーとなっている。

こうした業績が認められ、1994年、ハーバード大学国際問題研究所にフェローとして招聘された。黒衣の国際政治学者と呼ばれたカトリック神父、ブライアン・ヘア教授をはじめ、『文明の衝突』の著者サミュエル・ハンティントン教授、国防次官補を務めたジョセフ・ナイ教授、さらにはリベラル派の代表的論客スタンレー・ホフマン教授らの指導を受ける。

ノンフィクションの系譜に属する作品としては、世界の29都市に生起する情報戦を綴ったルポルタージュ『インテリジェンスの賢者たち』（『ライオンと蜘蛛の巣』改題、新潮文庫）に続き、環境問題を外交の重要テーマとして論じた『武器なき“環境”戦争』（池上彰氏との対論、角川SSC新書）を著す。情報小国ニッポンの覚醒を促した『インテリジェンス 武器なき戦争』（佐藤優氏との対論、幻冬舎新書）やバラク・オバマ米大統領をはじめ国際政局の最前線で活躍する29人の素顔に迫った『葡萄酒か、さもなければ銃弾を』（講談社）などの著作があり多くの読者を得ている。

またインテリジェンスの視点から描かれた物語としては、2006年に発表した『ウルトラ・ダラー』（新潮社）が、33万部のベストセラーに。「日々のニュースが物語の出来事を追いかけている」と反響を呼び、冷戦後の日本に初めて登場した「インテリジェンス小説」と評された。2010年春、小説『スギハラ・ダラー』（新潮社）を上梓。世界を震撼させた幾多の国際金融事件と、第二次大戦中に日本人外交官杉原千蔵が発給した「命のビザ」で生き延びたスギハラ・サバイバルをつなぐ驚愕のインテリジェンス小説として版を重ねている（新潮文庫に『スギハラ・サバイバル』として収録）。

現在は、大学や研究機関で外交・安全保障を中心に後進の指導にも積極的に取り組んでいる。